

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700201	人間環境学演習	1～2	2×2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修
通年	水	1	

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境とその両者の相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域をそこに位置づけることを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

【2カ年連続して履修し計4単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者が、自らの専門とするテーマについて発表を行う。プレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。なお、受講生と相談の上、文献講読も併行して実施する可能性がある。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けて、その検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。また、場合によっては、これと併行して文献講読を実施。

達成目標：

この演習では、上記【授業のテーマ】に掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、受講生各自の専門に基いて人間環境学の構築をめざす。

評価方法：

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

A：達成目標を相応に達成している

B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある

C：達成目標の最低限は満たしている

D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。なお、文献講読も併行して実施する場合、教員と受講生で相談の上、文献を決定。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700401	比較日本古典文学特論	1・2	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

万葉集・伊勢物語・和歌・和歌の修辞・古典文法

授業のテーマ：

現存する最古の歌集『万葉集』の丁寧な読解を通して日本文化の基底にある季節観を知ることからはじめ、後期は平安時代の歌物語『伊勢物語』の読解へと進む。

授業の概要：

『万葉集』『伊勢物語』についての基礎的な知識を習得する。

『万葉集』『伊勢物語』を読むことを通じて、古典文学に触れる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

- 1 『万葉集』についての概説 1
- 2 『万葉集』についての概説 2
- 3 『万葉集』についての概説 3
- 4 『万葉集』「梅花歌 32 首」
- 5 『万葉集』の表記法
- 6 『万葉集』の春の歌
- 7 『万葉集』1 から 7 までのまとめ
- 8 『万葉集』の時代の暦
- 9 『万葉集』の夏の歌
- 10 『万葉集』の秋の歌
- 11 『万葉集』の冬の歌
- 12 『万葉集』の恋の歌
- 13 『万葉集』の人事の歌
- 14 『万葉集』の 8 から 13 までのまとめ
- 15 全体のまとめ

（後期）

- 1 『伊勢物語』についての概説 1
- 2 『伊勢物語』についての概説 2
- 3 『伊勢物語』についての概説 3
- 4 『伊勢物語』第 1 段「初冠」 1
- 5 『伊勢物語』第 1 段「初冠」 2
- 6 『伊勢物語』和歌の修辞
- 7 『伊勢物語』第 1 2 5 段「つひに行く道」
- 8 1 から 7 までのまとめ
- 9 『伊勢物語』第 84 段「さらぬ別れ」
- 10 『伊勢物語』第 4 段「西の対」
- 11 『伊勢物語』第 9 段「東下り」 1
- 12 『伊勢物語』第 9 段「東下り」 2
- 13 『伊勢物語』第 9 段「東下り」 3
- 14 『伊勢物語』第 8 2 段「渚の院」
- 15 全体のまとめ

授業方法：

（前期）講義形式を基本とする。

（後期）講義形式を基本とする。

達成目標：

（前期）『万葉集』についての基礎的な知識を習得するとともに、万葉歌の表現の特質を理解する。

（後期）『伊勢物語』についての基礎的な知識を習得するとともに、伊勢物語の表現の特質を理解する。

評価方法：

授業への取り組み（50%）＋ レポート（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

（前期）森淳司（編）『訳文万葉集』笠間書院（1,800 円＋税）

（後期）片桐洋一・田中まき（編）『新校注 伊勢物語』和泉書院（1400 円＋税）

参考文献：下記書籍はどちらも人間環境大学図書館に所蔵しています。

片桐洋一 他（校注）『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館（4,457 円＋税）

堀内秀晃 他（校注）『新日本古典文学大系 竹取物語 伊勢物語』岩波書店（版元品切）

その他は授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700501	日本美術文化論特論	1・2	4	菅原太

期間	曜日	時限	備考
通年	火	3	

授業のキーワード：

編集、ミザンセヌ、ショット分析、動勢、サッカード

授業のテーマ：

日本人は古来から物語を視覚化することにその才能を発揮してきた。それは、話の筋をたどって場面ごとに絵で叙述してゆくだけでなく、見るものの感傷を揺さぶる高度な演出を生み出すまでに至っている。この講義ではまず、カメラワークや編集など、その多彩な技術が理論化されている映画手法を主な手掛かりとして、現代のマンガ・アニメーションを分析する。ついで絵画へと目を向け、古今の日本文化における物語の視覚化の手法を明らかにする。

授業の概要：

前期前半の映画とストーリーマンガの関係をもとに映画手法について解説。前期後半は商業アニメーションの実例からその映画的手法を読み解く。後期前半は、それらに先立って物語を表現する視覚メディアであった東西の絵画の映画手法による分析、後期後半は平安時代の絵巻の映画手法による分析を、造形心理学・認知心理学の観点も交えておこなう。

授業の計画：

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1. 授業の概要 (マンガ・アニメーションと映画手法) | 16. 後期授業の概要 (映画手法による絵画の分析) |
| 2. 黎明期の映画における物語の叙述と編集の仕組み | 17. 絵画に見る異時同図と物語の叙述的手法 |
| 3. 人の認知様式とD.W.グリフィスの古典的編集1 (ショットサイズ) | 18. 絵画の造形的特徴と物語表現の分析1 (動きの表現) |
| 4. 人の認知様式とD.W.グリフィスの古典的編集2 (クロスカットニング) | 19. 絵画の造形的特徴と物語表現の分析2 (注見と視線の誘導) |
| 5. エイゼンシュテインとソビエトモンタージュ | 20. 映画と絵画に見る、物語の観念の表現手法 |
| 6. ミザンセヌと静止画に見る物語表現 | 21. 高畑勲『十二世紀のアニメーション』における《伴大納言絵巻》の解釈1 |
| 7. 前期前半のまとめ (映画手法) | 22. 高畑勲『十二世紀のアニメーション』における《伴大納言絵巻》の解釈2 |
| 8. ストーリーマンガの成立と映画手法 | 23. 後期前半のまとめ (映画手法による絵画の分析) |
| 9. 石ノ森章太郎『マンガ家入門』におけるストーリーマンガと映画手法1 | 24. 《言真山縁起絵巻》の映画手法による分析1 |
| 10. 石ノ森章太郎『マンガ家入門』におけるストーリーマンガと映画手法2 | 25. 《言真山縁起絵巻》の映画手法による分析2 |
| 11. W.ディズニーと劇場用商業アニメーションの成立 | 26. 《言真山縁起絵巻》の映画手法による分析3 |
| 12. 60年代のテレビアニメとリミテッドアニメーション | 27. 徳川・五島本《源氏物語絵巻》の映画手法による分析1 |
| 13. 70年代のテレビアニメに見る映画手法の確立 | 28. 徳川・五島本《源氏物語絵巻》の映画手法による分析2 |
| 14. 80年代以降の商業アニメーションと映画手法 | 29. 徳川・五島本《源氏物語絵巻》の映画手法による分析3 |
| 15. 前期後半のまとめ (マンガ・アニメーションと映画手法) | 30. 後期のまとめ (映画手法による絵画の分析) |

授業方法：

絵巻・マンガ等のプリント資料の配布とスライド上映、映画・アニメーション等のビデオ上映など視聴覚資料を使用した講義。

達成目標：

カメラワークや編集など基礎的な映画理論を学習し、それをもとに、マンガ・アニメーション・絵巻の形式や表現手法の共通点と相違点を踏まえる。こうしたことによって、物語に重点を置いた日本の視覚芸術文化について理解する。

評価方法：

レポート 100%

成績評価基準：

- A: 達成目標を相応に達成している
- B: 達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C: 達成目標の最低限を満たしている
- D: 達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

- ルイス・ジアネットィ『映画技法のリテラシーI』フィルムアート社 3,456円
- 岩本憲児・波多野哲郎編『映画理論集成』フィルムアート社 5,800円
- 石ノ森章太郎『マンガ家入門』秋田文庫 607円
- 大塚英志『映画式まんが家入門』アスキー新書 823円
- 三輪健太郎『マンガと映画』NTT出版 4,536円
- 高畑勲『十二世紀のアニメーション』徳間書店 3,888円
- 泉武夫『躍動する絵の舌を巻く 言真山縁起絵巻』小学館 2,052円
- 清水婦久子『国宝源氏物語絵巻を讀む』泉書院 3,024円
- 佐野みどり『じっくり見たい 源氏物語絵巻』小学館 2,052円
- J・M・フィンドレイ、I・D・ギルクリスト著 本田仁視監訳『アクティブ・ビジョン』北大路書房 3,520円
- ルドルフ・アルンハイム著 波多野完治・関計夫訳『美術と視覚 上・下』美術出版社 各1,900円
- ロバート・L・ソルソ著 鈴木光太郎・小林哲生訳『図画の絵をどのように理解するか』新薔社 3,780円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730601	環境経済学演習	1～2	2×2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	月	3	

授業のキーワード：

富、貨幣、金融、経済成長

授業のテーマ：

経済的富である貨幣や金融資産と、物理学的視点から見た富との根本的な違いについて理解する。また、経済的富を増加させることが必ずしも物理学的視点から見た富の増加には繋がらず、様々な問題を引き起こす可能性について考える。

授業の概要：

近現代の経済学に様々な視点から批判を加えた経済学者や自然科学者の著作の原書を手がかりにして議論を行っていく。原書については I. Fisher や F. Soddy の著作などを予定。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

- （1）イントロダクション
- （2）～（14）発表、原書の購読および議論
- （15）前期のまとめと復習

（後期）

- （16）イントロダクション、前期の復習
- （17）～（29）発表、原書の購読および議論
- （30）後期のまとめと復習

授業方法：

発表、原書購読、議論

達成目標：

経済学を当初の学説の次元から理解できるようになる。そのことを自身の論文作成に繋げることができる。

評価方法：

期末レポート 100%

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

適宜指定する。

参考文献：

適宜指定する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード：

経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境 科学の統合 人間と環境とのつながり

授業のテーマ：

出来上がった経済学の体系ではなく、その体系が出来上がっていくまでの過程に注目することを通じて、経済学をより深い次元から理解する。

授業の概要：

各時代の経済学者の経済思想を年代順に紹介する。そして、それらがどんな現代的意義を有しているかについて考えてみる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

- (1) イントロダクション
- (2) ケネー①
- (3) ケネー②
- (4) アダム・スミス①
- (5) アダム・スミス②
- (6) アダム・スミス③
- (7) アダム・スミス④
- (8) 復習
- (9) マルサスとリカード①
- (10) マルサスとリカード②
- (11) マルクス①
- (12) マルクス②
- (13) マルクス③
- (14) マルクス④
- (15) まとめ

（後期）

- (1) 新古典派①
- (2) 新古典派②
- (3) 新古典派③
- (4) ケインズ①
- (5) ケインズ②
- (6) フリードマン
- (7) 復習
- (8) ヴェブレン①
- (9) ヴェブレン②
- (10) ガルブレイス①
- (11) ガルブレイス②
- (12) カップ①
- (13) カップ②
- (14) カップ③
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

経済学史の重要性を理解する。科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。

評価方法：

期末試験（筆記試験）100%（前期50%、後期50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。
その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費： なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750101	環境保全演習及び実習	1～2	2×2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	木	2	

授業のキーワード：

環境保全、生態系、農業、データ、事例、リスク

授業のテーマ：

人間と自然環境との関わり方を考える際に重要な概念である生態系に対する理解を基に、これからの環境保全の在り方について考える。その中で、各種データの取り扱い方や、議論のとりまとめ方についても修得する。

授業の概要：

前期は「環境」及び「環境保全」をキーワードとして、その考え方や実際の施策、その評価についての文献を手掛かりに輪読や文献紹介を行った後、「生態系」及びその人間との関わりについて展開し、議論を進めていく。後期は、前期で得た知識を基にしつつ、関連事項についてテーマを定め、実際の環境問題や環境保全事業の事例について、その解決策、事業の妥当性等について議論を行なう。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

- (1) イントロダクション
- (2)～(14) 文献紹介，文献講読，及び議論
- (15) 前期のまとめと復習

（後期）

- (16) イントロダクション，前期の復習
- (17)～(29) 文献紹介，文献講読，及び議論
- (30) 後期のまとめと復習

授業方法：

発表，文献講読，議論

達成目標：

環境を保全するという事について、一側面における情報のみを鵜呑みにすることなく、多角的に検討した上で、自ら適切な方法について提案でき、その内容を他者に正確に文章や発表を通して伝えることができる。

評価方法：

レポート（50%），発表を含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特に指定しない。必要に応じて資料を適宜配布する。

参考文献：

適宜提示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授 業 科 目 名		対象学年	単位数	担当教員名
750301	環境リスク管理演習及び実習		1～2	2×2	谷地俊二
期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2ヵ年連続履修		
通年	木	3・4			

授業のキーワード：

不確実性、リスク分析、意思決定

授業のテーマ：

リスクと不確実性は、環境問題ないしは環境負荷において重要なポイントである。つまり、合理的な意思決定を行う上で、このキーワードの意味と使用方法を理解しておかなければならない。意思決定を行う際に、その発生確率や潜在的な影響の大きさを、定性的あるいは定量的に明示すること（リスク分析）により、リスク評価や意思決定に関わる関係主体とのコミュニケーションはスムーズとなる。リスク分析結果をリスクコミュニケーションに反映し、環境リスク管理手法の修得を目的とする。

授業の概要：

この演習及び実習では、まずリスク評価ツールのひとつとしてのリスク分析を用いて実践的な環境リスク管理モデルを構築することで、洞察に富んだ解析手法を修得する。前期にはリスク分析の技法修得のための講義および実技を展開し、後期にはリスクコミュニケーションへの導入を行う。また、修士論文指導もあわせて行う。

授業の計画：

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| (前期) | (後期) |
| 1. イントロダクション | 1. イントロダクション |
| 2. 環境リスク評価のプロセス | 2. 観測データの特性の分析 |
| 3. 各自の課題設定 | 3. 主観的推定における誤差の原因 |
| 4～5. モンテカルロ・シミュレーション | 4～13. 発表とディスカッション |
| 6. 分布形の変化に関する視覚的理解 | (随時ブレイクストーミングも行う) |
| 7～10. パラメータに関する不確実性の定量化 | 14. 修士論文指導 |
| 11. 課題についてモデル化の可能性 | 15. 修士論文研究報告 |
| 12. リスク分析モデルの種類 | |
| 13. 不確実性と変動性の分離 | |
| 14. 明確なモデルの記述 | |
| 15. 総括・修士論文中間報告 | |

授業方法：

各自が設定した問題について、回ごとに進捗状況を発表し、今後の課題解決に向けてディスカッションを行う。

達成目標：

リスクコミュニケーションツールとしてのリスク分析手法を修得し、さまざまな課題について定性的・定量的なリスク管理を提案し、実践できる。

評価方法：

各回の発表（100%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

デビッド・ヴォース『入門リスク分析 基礎から実践』勁草書房、2003年、¥6,800

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	谷地俊二

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
後期	木	1・2	

授業のキーワード：

リスクコミュニケーション、ステークホルダー、環境問題

授業のテーマ：

人間活動が多様化する中で、環境問題や環境リスクも多様化している。つまり、それぞれに対応する環境リスク管理の手法も存在する。ただし、いずれにおいてもリスクコミュニケーションがキーとなって、解決案を創出していくこととなる。リスクコミュニケーションの理解と環境リスク管理手法の基礎を実習として修得することを目的とする。

授業の概要：

事例紹介と共に、学生各自が市民・団体職員・企業といった利害関係者の立場を想定してのディスカッションを行う。これにより、リスク管理で最も重要であるリスクコミュニケーションを通して、発生した問題に対する対応策やその結果について討論する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ～3. リスクコミュニケーションとステークホルダーの役割
4. ～6. 自然災害への対応
7. ～8. 公害発生への対応
9. ～11. 工場建設への対応
12. ～14. 工場事故や農薬使用といった人為的影響への対応
15. まとめ

授業方法：

受講生による発表とディスカッションを展開し、解説としての講義を適宜行う。

達成目標：

環境リスクの管理において、リスクコミュニケーションの基礎的な技能を身に付け、それぞれの利害関係者としての立場における多面的視野からの意見を発信することができる。

評価方法：

レポート（50%）、発表を含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特に指定しない。必要に応じて資料を適宜配布する。

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750601	企業会計演習	1～2	2×2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	4	

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 リース会計 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものであり、さらには各国の会計制度を概観することによって会計制度の発展過程を考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革を、後期には会計史についてとりあげる。

また、修士論文指導もあわせて行う。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

前期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 連結財務諸表制度
4. 税効果会計
5. 退職給付会計
6. 時価主義
7. 減損会計
8. キャッシュフロー計算書
9. 企業結合会計
10. 会社法会計
11. 金融商品取引法会計
12. 資産除去債務に関する会計
13. 会計制度の国際的動向
14. 会計制度の新たな展開
15. 総括・修士論文中間報告

後期

1. フランスの簿記事情と会計規程の成立
2. ドイツ式簿記とイタリア式簿記
3. ネーデルランド会計史の現代的意義
4. 15-19世紀イギリスの簿記事情
5. アメリカの簿記理論の体系化
6. 和式帳合と複式簿記の輸入
7. 株式会社会計の起源
8. 株式会社制度確立期の財務報告
9. 株式会社と管理会計の生成
10. 株式会社と会計専門職業
11. 政府・自治体と公会計
12. 会計理論の生成と展開
13. 現代会計へのプロローグ
14. 修士論文指導
15. 修士論文研究報告

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

また、各国の会計制度の発展過程を理解できること。

評価方法：

各回の発表：100%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ会計制度 新訂版』 同文館出版 2011年 ¥2,160

中野常男・清水泰洋編著 『近代会計史入門』 同文館出版 2014年 ¥3,400

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750701	開発人類学演習	1～2	2×2	小谷博光

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	1	

授業のキーワード：

持続可能性、開発援助、貧困、ソーシャル・キャピタル、アクターアプローチ

授業のテーマ：

開発人類学の研究を進めるには、開発援助などの開発行為が人々に与える影響を、人類学的な視点と手法により分析することを学ぶことが重要である。そのためには、「貧困」や「持続可能性」などの概念だけでなく、調査対象地域に残る風習や制度なども理解することが求められる。本演習では、開発概念などに関する書籍を輪読した上で、各地域の文化的・宗教的背景などの理解を助ける書籍なども輪読し、修士論文作成に必要な知識を身につける。

授業の概要：

本演習では、開発援助や地域研究、ジェンダー研究、開発と環境保全、農村開発など、開発人類学における主要なトピックを、書籍の輪読と討論を通して解説する。

授業の計画：

前期

- (1) イントロダクション
- (2)～(14) 輪読した書籍の発表と討論
- (15) 前期の総括

後期

- (16) イントロダクション、前期の復習
- (17)～(29) 輪読した書籍の発表と討論
- (30) 後期の総括

授業方法：

輪読の発表と解説、討論

達成目標：

書籍の輪読を端緒として、開発人類学で扱う開発概念などを理解し、解説と討論を通してさらに理解を深める。これらの研究に関わるプロセスを発展させ、修士論文作成へとつなげていく。

*事前準備（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

評価方法：

各回の発表のレジュメ 60% 討論への貢献度 40%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

適宜、指示する。

参考文献：

青山知佳、受田宏之、小林誉明編著（2010）『開発援助がつくる社会生活 第2版 現場からのプロジェクト診断』大学教育出版 2,640円（税込）

小國和子（2006）『村落開発支援は誰のためかーインドネシアの参加型開発協力に見る理論と実践ー』明石書店 3,300円（税込）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750801	野生動物学演習及び実習	1～2	2×2	立脇・西田

期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2ヵ年連続履修
通年	月	1・2	

授業のキーワード：

野生動物学、野外調査、資料作成、プレゼンテーション、ディスカッション

授業のテーマ：

乱獲や開発など人間が野生動物に与える影響や、野生動物の増加に伴う人間への影響が顕著になり、社会問題となっている。これらの社会問題を解決に導くには、対象となる野生動物の生態や、これらの問題が生じる仕組みを科学的に理解する必要がある。本演習および実習では、野生動物の生態や問題の仕組みの理解を目指すものとする。

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の学生にも理解できるように配慮することが求められる。

* 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

(前期)	(後期)
(1)イントロダクション	(1)イントロダクション、前期の復習
(2)-(14)文献読解、発表、議論、実習	(2)-(14)文献読解、発表、議論、実習
(15)前期のまとめと復習	(15)後期のまとめと復習

授業方法：

基本的には、各受講生の研究テーマを中心とした文献読解、発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式で進めるが、野外調査、試料分析、データ解析なども実施する。

達成目標：

野生動物の生態あるいは野生動物と人間の間で生じる問題について、学術論文をもとに論じることができるようになる。そのことを自身の論文作成につなげることができる。

評価方法：

研究発表とその内容（50%）、授業への取組（50%）

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

適宜指定する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750901	データアナリシス演習	1～2	2×2	薄井智貴

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	4	

授業のキーワード：

数理統計解析、データ循環、輪講、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

授業のテーマ：

環境問題の真の姿を捉えるためには、関連した情報（データ）を適切に分析し、正しく理解することが必須です。また、私たちの生活の利便性や快適性を損なわないような状況を考慮し、持続可能な解決策を見つけることも必然です。本授業においては、生活の中の地球環境問題を正しく理解するため、様々な文献を通して、環境問題を把握するためのデータ分析手法や分析事例を学びます。

授業の概要：

数理統計解析／環境分野に関する文献輪読、ならびに履修生間のディスカッションを通して、データ分析・循環に必要な専門知識を身に付け、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の向上を図ります。

授業の計画：

《前期》

- ・ 前期ガイダンス、発表順と担当範囲の決定
- ・ 前期利用する文献の紹介
- ・ 輪講（発表＋質疑応答）×12回（一人2～3回発表予定）
- ・ 前期文献のまとめと授業総括

《後期》

- ・ 後期ガイダンス、発表順と担当範囲の決定
- ・ 後期利用する文献の紹介
- ・ 輪講（発表＋質疑応答）×12回（一人2～3回発表予定）
- ・ 後期文献のまとめと授業総括

授業方法：

数理統計解析、環境問題、次世代モビリティ・AI論などに関する文献を取り上げ、履修生が分担して内容を説明し、その後、履修生間で質疑応答を行います。必要な知識を身に付け、論理的思考力・コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の向上を図ります。

達成目標：

当該分野における幅広い知識を修得し、専門家として議論ができるようになることを目標とします。また、専門分野に関するプレゼンテーションの実施により、専門分野に関する説明力を身につけます。

評価方法：

授業の取り組み（発表スライド、質疑応答）：60%
発表後のレポート：40%

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特になし

参考文献：

ガイダンスおよび授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760101	環境保全特論	1・2	4	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

環境保全、生態系、農業、データ、事例、リスク

授業のテーマ：

人間と自然環境との関わり方を考える際に重要な概念である生態系に対する理解を中心として、これからの環境保全の在り方について考察する。その中で、各種データの取り扱い方や、議論のとりまとめ方についても修得する。

授業の概要：

前期は「環境」及び「環境保全」について、その考え方や実際の施策、その評価について解説した後、「生態系」及びその人間との関わりについて扱う。後期は、前期で得た知識を基にしつつ、関連事項の知識の整理を行ない、実際の環境問題や環境保全事業の事例について、その解決策、事業の妥当性等について検討を行なう。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. ガイダンス
2. ～3. 環境問題とは何か
4. ～5. 環境保全の考え方
6. ～7. 施策や事業の効果に対する評価方法
8. ～9. 生態系とは
10. ～11. エコシステムマネジメント
12. ～14. 人間と（自然）環境との関わりについて—農業を中心に—
15. まとめ

（後期）

1. ガイダンス
2. ～4. 河川の環境保全—事例と考察—
5. ～7. 土壌の環境保全—事例と考察—
8. ～10. 大気の環境保全—事例と考察—
11. ～12. 身近な環境問題について考える
13. ～14. 意思決定ツールとしての生態リスク評価
15. まとめ

授業方法：

講義形式を軸とするが、受講生による発表や、ディスカッションを適宜行う。

達成目標：

環境を保全するという事について、一側面における情報のみを鵜呑みにすることなく、多角的に検討することができ、自ら適切な方法について提案できる力を身につける。

評価方法：

レポート（50%）、発表を含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特に指定しない。必要に応じて資料を適宜配布する。

参考文献：

適宜提示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760301	環境リスク管理特論	1・2	4	谷地俊二

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3	

授業のキーワード：

トレードオフ、意思決定、リスク分析

授業のテーマ：

人間による生産活動の活性化が促進される中、近年では持続可能な開発目標（SDGs）の達成が求められている。自然との共生を考える際に、人間の生産活動による環境への負荷や、その生産活動と負荷のバランスを考えなければならない。これら環境リスク管理の手法を事例とともに整理し、一連の流れの理解を目的とする。

授業の概要：

前期は、主に概念について学ぶ。概念を理解できた上で、後期では様々なケースにおける対応手法を事例紹介し、どのような対応が行われてきたかや、時代の変化とともに対応がどのように変化したかを確認する。これをもとに、市民・団体職員・企業といった立場における対応案と結果を検証する。

授業の計画：

(前期)	(後期)
1. ガイダンス	1. ガイダンス
2. ～3. リスク管理の考え方	2. ～3. リスク分析①_原因の明確化
4. ～5. トレードオフとリスクの順位付け	4. ～5. リスク分析②_量と影響の関係
6. ～7. リスク共生の概念	6. ～8. 自然災害のケース
8. ～10. 社会の安全と仕組み	9. ～11. 生産活動による環境悪化のケース
11. ～12. リスクコミュニケーションの流れ	12. ～14. 科学技術による事故のケース
13. ～14. 意思決定とフォーカスポイント	15. まとめ
15. まとめ	

授業方法：

講義形式を軸とするが、受講生による発表とディスカッションを適宜行う。

達成目標：

環境リスクの管理において、順序立てたシナリオを組み立てることができ、さまざまなケースにおいても最終的な意思決定までを多面的視野によってリードできる力を身につける。

評価方法：

レポート（50%）、発表を含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

特に指定しない。必要に応じて資料を適宜配布する。

参考文献：

中谷内一也 『リスク-不確実性の中での意思決定』丸善出版、2015年、¥1,000

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
761001	企業会計特論	1・2	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考
通年	金	3	

授業のキーワード：

財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：

前期は、企業会計の基本を深く理解するために、財務諸表の主要な項目について、その会計理論・会計処理を学ぶ。また、会計制度の変革とともに新設・改訂された会計基準についても学び、最新の企業会計の新展開について理解する。後期は、近年、日本において IASB によって設定された国際財務報告基準 (IFRS) に対応すべく、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められているため、この IFRS への対応をとりあげ考察していく。

授業の概要：

会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理について仕訳をまじえて詳細に解説する。また、その後、国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷と日本の IFRS への対応をとりあげ論及する。なお、本科目は企業会計の基礎知識、とりわけ会計制度についての基本的知識および簿記処理手続についての知識が必要であり、この科目の受講に際しては、日商簿記検定 2 級 (商業簿記) 以上の知識を有していることを条件とする。

* 準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

前期

1. 会計の意義と領域
2. 会計の法的制度
3. 会計の基本構造
4. 利益計算の基本原則
5. 現金・預金と金銭債権の会計
6. 有価証券の会計
7. 棚卸資産の会計
8. 有形固定資産の会計
9. 無形固定資産と投資その他の資産の会計
10. 繰延資産の会計
11. 負債の会計
12. 純資産の会計
13. 収益と費用の会計
14. 財務諸表の作成
15. キャッシュ・フロー計算書

後期

1. 国際会計基準の概要、意義と特徴
2. 従業員給付会計
3. 国際財務報告基準 (IFRS)
4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向
5. 日本における会計基準コンバージェンス
6. 有形固定資産会計
7. 投資不動産会計
8. 売却目的固定資産会計
9. 無形資産会計
10. 棚卸資産会計
11. 金融商品会計
12. 引当金会計
13. 偶発債権・債務会計
14. ストック・オプション等会計
15. 損益会計論 (収益会計)

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：

前期：貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表を正式に作成できること。

後期：国際財務報告基準 (IFRS) を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRS がわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになること。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点 100%。

なお、受講態度 (講義への積極的取り組み・遅刻など) についても評価対象とする。

* 準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

上野清貴 『財務会計の基礎 第4版』 中央経済社 2015年、¥3,024

平松一夫 『IFRS 国際会計基準の基礎 第4版』 中央経済社 2015年、¥3,024

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
761101	開発人類学特論	1・2	4	小谷博光

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

開発人類学、国際協力、国際農学、文化人類学、異文化理解

授業のテーマ：

開発途上国で起こる問題や課題に着目し、開発援助を通じて、どの様に解決に向けて取り組まれているのかについて学ぶ。また、どうすればより効果的な開発援助となる可能性があるのかを検討する。

授業の概要：

前半は開発援助の開発概念やアプローチ、開発政策などの潮流を、現代社会の出来事とリンクさせながら理解する。後半は開発援助の中でも人々の生活と密接に結びついている農業開発と、開発現場で援助効果に大きな影響を与えるジェンダー平等に着目し、開発現場で何が起きているのかを学ぶ。

授業の計画：

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| (1) イントロダクション | (16) 発展途上国に暮らす人々と開発援助 |
| (2) 開発アクターの多様性 | (17) 農業開発とは |
| (3) 国際機関とドナー国政府機関 | (18) 地域毎に生産される農産物 |
| (4) 草の根の開発援助 | (19) なぜ農業生産が発展に結びつかない |
| (5) 新しい開発援助の形（クラウドファンディング） | (20) 気候変動の影響を受ける農業と開発 |
| (6) 開発政策と開発概念の変遷（1950年代～1970年代） | (21) 伝統文化に配慮した農業開発 |
| (7) 開発政策と開発概念の変遷（1980年代～2000年代） | (22) 先進技術を取り入れた農業開発 |
| (8) 開発政策と開発概念の変遷（2010年代～現在） | (23) ジェンダーとは、平等とは |
| (9) 地域毎の主な開発課題（アフリカ） | (24) ジェンダー不平等な社会は悪いのか？ |
| (10) 地域毎の主な開発課題（ラテンアメリカ） | (25) ジェンダー不平等が阻む開発と発展 |
| (11) 地域毎の主な開発課題（アジア） | (26) SDGs で示されるジェンダー課題 |
| (12) 地域毎の主な開発課題（大洋州） | (27) 地域のジェンダー規範を考慮した開発 |
| (13) 地域毎の主な開発課題（中東） | (28) 地域のジェンダー規範を考慮した開発 |
| (14) 地域毎の主な開発課題（欧州） | (29) 地域のジェンダー規範を考慮した開発 |
| (15) 前半の総括 | (30) 後半の総括 |

授業方法：

講義形式とするが、グループディスカッションやワークショップを多く取り入れる。

達成目標：

開発人類学の視点から、国際協力それ自体と国際協力が現地の人々に与える影響を、援助国と被援助国の開発援助関係者、受益者の立場から理解することができる。

*事前準備（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

評価方法：

レポート 100% *成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

適宜、指定する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
761201	野生動物学特論	1・2	4	立脇・西田

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

野生動物, 管理, 保護, 愛護, 絶滅危惧種, 外来種, 農作物被害

授業のテーマ：

野生動物と人間の適切な関係を築き、維持していくために、野生動物と人間の間で生じている諸問題について理解するとともに、管理・保護の視点を交えつつ、野生動物の生態、野生動物管理の諸問題について理解することを目指すものとする。

授業の概要：

前期には野生動物管理等を主として、後期では絶滅危惧種や外来種に関する諸問題等を中心に講義や、グループワーク・グループディスカッションを行う。

授業の計画：

- | | |
|----------------------|------------------------|
| (1) イントロダクション | (16) 絶滅危惧種の保全と管理① |
| (2) 野生動物管理① | (17) 絶滅危惧種の保全と管理② |
| (3) 野生動物管理② | (18) 絶滅危惧種の保全と管理③ |
| (4) 野生動物の科学的管理① | (19) 外来種管理の考え方① |
| (5) 野生動物の科学的管理② | (20) 外来種管理の考え方② |
| (6) 野生動物管理システム① | (21) 外来種管理の考え方③ |
| (7) 野生動物管理システム② | (22) 生態系と野生動物のインパクト① |
| (8) 野生動物管理システム③ | (23) 生態系と野生動物のインパクト② |
| (9) 野生動物管理と動物愛護の理念① | (24) 生態系と野生動物のインパクト③ |
| (10) 野生動物管理と動物愛護の理念② | (25) 野生動物の価値と利用① |
| (11) 野生動物保護管理に関わる法律① | (26) 野生動物の価値と利用② |
| (12) 野生動物保護管理に関わる法律② | (27) 野生動物の価値と利用③ |
| (13) 農林業被害と野生動物管理① | (28) 野生動物管理におけるモニタリング① |
| (14) 農林業被害と野生動物管理② | (29) 野生動物管理におけるモニタリング② |
| (15) 前半の総括 | (30) 後半の総括 |

授業方法：

講義形式とするが、グループディスカッションやワークショップを多く取り入れる。

達成目標：

野生動物の生態、人間との適切な関わりについて、これまでに明らかになっている科学的事実をもとに説明できるようになる。

評価方法：

レポート 100% *成績発表後、試験・レポートを行なった場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

羽山伸一・三浦慎吾・梶光一・鈴木正嗣「野生動物管理-理論と技術-」文永堂出版 7,200 円+税など適宜指定する

参考文献：

適宜指定する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
761301	データアナリシス特論	1・2	4	薄井智貴

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

データ分析、データ循環、統計学、R 言語、プログラミング

授業のテーマ：

データとは何か、またそれを取得し、分析することが何を意味するのか、実社会の様々なデータを正しく理解し、分析するために必要な数理専門知識とスキルを身につける。また、データを分析することで得られる、そのデータの背後に潜むメカニズムの解釈や、データに基づいた意思決定や問題解決を行う際に、分析者が知っておくべき幅広い知識を身につける。

授業の概要：

データ分析に必要な分析手法の技術だけでなく、データの質や扱い方、解釈の方法まで、データ分析者が知っておかなければならない知識を網羅的に学修する。特に、データのばらつきやバイアスに関する考え方や知識、サンプリングの方法論やデータハンドリングのノウハウ、数理モデリングのポイントなど、実社会での事例をもとに、実践に役立つ統計学の理論と R 言語によるプログラミング技術を修得する。

授業の計画：

《前期》全 15 回

- ・ 前期ガイダンス、データとは何か
- ・ 観測によるデータの取得について
- ・ 誤差とばらつきについて
- ・ データに含まれるバイアスの処理
- ・ 交絡因子と因果関係
- ・ サンプリングデータの方法論
- ・ データの取り扱いと管理
- ・ まとめと前期総復習
- ・

《後期》全 15 回

- ・ 後期ガイダンス、前期のおさらい
- ・ 1 変数データの振る舞い
- ・ 2 変数間の関係性
- ・ 多変数データの解釈
- ・ 数理モデリングの要点
- ・ データ分析と解釈の罫
- ・ データ活用の罫
- ・ まとめと総復習

授業方法：

- [1] 毎回の授業の初めに、前回の復習をします
- [2] 講義の最後に選択課題を出します(課題は次回授業の冒頭で解説します)
- [3] 授業は講義+PC 演習(R 言語を用いた統計解析)の形式で進めます
- [4] 授業の前には、コマシラバスに記載されている内容について予習しておくこと

達成目標：

データ分析の必要性や分析するための手順、手法、分析結果の解釈の仕方を理解する。また、統計解析ソフトウェア R 言語を用いて、自らデータ分析とそれに伴う意思決定・問題解決ができる。

評価方法：

授業の取り組み...40%:課題の提出、授業中の態度を評価します
課題レポート ...60%:前期と後期のそれぞれ最後に 2 回のレポート課題を実施し、評価します。

成績評価基準：

- A:達成目標を相応に達成している
- B:達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C:達成目標の最低限は満たしている
- D:達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

江崎貴裕、『データ解釈学』、ソシム、¥2860

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	山田・三後・坂本・和田・丸山
期間	曜日	時限	備考：2 ヲ年連続履修	
通年	水	2		

授業のキーワード：

臨床心理学 研究方法 修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、臨床心理学および心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、方法論的、臨床的側面から検討し、実践に即した臨床心理学研究として修士論文をまとめることを目的とする。

授業の概要：

院生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。担当教員全員が研究内容の討論に参加することにより、院生が、多様な理論あるいは心理臨床の種々のオリエンテーションによる研究の着想を自身の研究に有機的に結びつけることが可能となる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1年次前期末には院生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。院生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他院生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、院生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

院生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合させながら、担当教員による個人指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理実践を研究にまとめるプロセスを理解できる。さらに、臨床心理学研究として必要な理論的検討および方法論の選定に加え、臨床現場へと還元する視点を踏まえた研究論文の作成を目指す。

評価方法：

研究発表とその内容（50%） 授業への取り組み（50%）。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：なし

参考文献：なし

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	三後・米澤

期間	曜日	時限	備考：3時間連続
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。また、遊戯療法および心理面接の検討や箱庭療法の実習等を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前期は臨床心理士としての基本について学び、ロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。後期は事例検討を中心として、アセスメント、事例理解、クライアントへの援助方法等を学び、臨床の基礎力を主体的に習得します。複数の教員との討論を通して多様な観点から深く事例を理解することは、セラピストとして必須となります。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

<前期>

- ① オリエンテーション
 - ② 心理臨床に関する倫理について
 - ③ 心理臨床に関する関連法規について
 - ④ 心理面接を行う基本的態度・初回面接・事例研究について
 - ⑤ ロールプレイの基礎（ビデオ視聴・紙上応答訓練）
 - ⑥～⑩ ロールプレイ（実習）
- *カンファレンス（M2と合同）：第2金曜日 計3回
*施設見学実習（私設心理相談室等）

<後期>

- ① 遊戯療法事例の検討
 - ② 「来談者中心療法」ビデオ視聴と検討
 - ③ 事例の見立てについて
 - ④～⑩ 事例検討（院生担当事例について）
- *カンファレンス（M2と合同）：第2金曜日 計3回

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が基本となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

35,000円（実習教育・教材費および消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770701	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2	二宮有輝
期間	曜日	時限	備考：	
後期	金	5		

授業のキーワード：

心理アセスメント，心理検査，知能検査，発達検査

授業のテーマ：

心理臨床現場での実践家（公認心理師・臨床心理士）にとって必須業務の1つである心理アセスメントのうち，特に知能検査・発達検査に焦点をあてて，心理職の実践におけるアセスメントの意義，その背景理論と方法，心理的援助（相談など）への応用について学びます。

授業の概要：

本科目は，現在我が国の臨床場面で広く使用されている知能検査である WAIS や WISC を中心に，その実施方法，解釈方法，所見の作成，及び被検査者へのフィードバックまでの流れを実践的に学ぶことを目的としている。

授業の計画：

- 第1回 Wechsler 式検査について：自作資料にて検査について学ぶ。
- 第2回 WISC① 実施方法を学ぶ：マニュアルを読んで実施方法を学ぶ
- 第3回 WISC② 実施1：ペアを組んで実施。採点まで行う
- 第4回 WISC③ 実施2：交代で実施。採点まで行う
- 第5回 WISC④ 解釈
- 第6回 WISC⑤ 所見：自作資料
- 第7回 WAIS① 実施方法を学ぶ：マニュアルを読んで実施方法を学ぶ
- 第8回 WAIS②：実施1（採点）：ペアを組んで実施。採点まで行う
- 第9回 WAIS③：実施2（採点）：交代で実施。採点まで行う
- 第10回 WISC・WAIS まとめ：フィードバック
- 第11回 バッテリー①：検査について，各自調べてきて発表
- 第12回 バッテリー②：検査について，各自調べてきて発表
- 第13回 バッテリー③：検査について，各自調べてきて発表
- 第14回 バッテリー④：検査について，調べてきて発表
- 第15回 全体のまとめ

授業方法：

理論・方法論の講義のあと，演習形式で実践を行います。課題を出すこともあります。

達成目標：

実際に定められた手続きに即して検査を実施し，検査結果をまとめることができるようになること。

評価方法：

成績の評価は，レポートの内容に基づいて評価します。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

適宜紹介します。

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770801	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2	山田 勝

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード：心理アセスメント、心理検査、投映法、ロールシャッハ法

授業のテーマ：心理臨床現場での実践家（公認心理師・臨床心理士）にとって必須業務の1つである心理アセスメントのうち、心理検査法の実践を学びます。本授業では、特に投映法であるロールシャッハ法に焦点をあててその背景理論とともに、実施方法を習得することを目指します。

授業の概要：心理検査法の中でも特にロールシャッハ法を取り上げて、その基礎知識及び背景理論を学ぶとともに、検査法の実習を通して、実施方法を体験的に習得できるようにしていきます。

授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：テスト体験について
- 第2回 心理アセスメントの基本：投映法とは何か
- 第3回 ロールシャッハ法の基礎知識について
- 第4回 ロールシャッハ法の実習(1) 実施方法
- 第5回 ロールシャッハ法の実習(2) 反応数・反応領域
- 第6回 ロールシャッハ法の実習(3) 決定因・形態水準
- 第7回 ロールシャッハ法の実習(4) 反応内容・平凡反応
- 第8回 ロールシャッハ法の実習(5) 感情カテゴリー
- 第9回 ロールシャッハ法の実習(6) 思考・言語カテゴリー
- 第10回 ロールシャッハ法の実習(7) 分類記号とその心理学的意味づけのまとめ
- 第11回 ロールシャッハ法の実習(8) テスター体験
- 第12回 ロールシャッハ法の実習(9) 実施事例のスコアリング
- 第13回 ロールシャッハ法の実習(10) 実施事例の分析と解釈
- 第14回 ロールシャッハ法の実習(11) 報告書の作成
- 第15回 まとめ

授業方法：基本的な概念を講義で説明し、演習形式で実践を行います。毎回の内容を各自復習するとともに、宿題を課しますので、毎週課題を行って来ることを求めます。

達成目標：

1. ロールシャッハ法についての基本的知識を説明することができるようになること。
2. 実際に定められた手続きに即して検査を実施し、検査結果をまとめることができるようになること。

評価方法：成績の評価は、課題への取り組み(50%)、レポートの内容(50%)に基づいて評価します。
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：「新版 ロールシャッハ法解説 名大法マニュアル」(福村出版) 2,900円＋税
*大学院でまとめて購入しますので、個人で買わないこと。

参考文献：適宜紹介します。

実験・実習・教材費：なし(テキスト代については別途連絡します)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
771101	心理実践実習 A	1	2	山田・三後・坂本・丸山・和田・二宮・柴田・秋田・米澤

期間	曜日	時限	備考：
通年	その他		

授業のキーワード：

公認心理師 施設見学 学外実習 学内実習

授業のテーマ：

心理支援の専門家を目指す者には、様々な領域における心理支援の実践的な力の修得が求められる。心理実践実習 A では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 つの分野の施設における実習と大学附属の臨床心理相談室での実習を通して、要支援者への支援の実際を学ぶ。

授業の概要：

心理実践実習 A では、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野を中心とした複数の学外施設見学、実習前後の指導、附属臨床心理相談室の見学とケース担当、担当ケースのスーパービジョン、ケースカンファレンスへの参加を通して、今後の心理支援に必要な力を修得させるための教育を行う。また、学外施設における実習を通して支援の実際を学ぶ。

授業の計画：

前期 メンタルクリニック、単科精神科病院、総合病院精神科、児童福祉施設、教育相談センター、矯正施設、従業員支援機関の見学（事前指導と事後指導も含む） 附属臨床心理相談室の見学とケースカンファレンスへの参加

後期 附属臨床心理相談室でのケース担当とスーパービジョン、ケースカンファレンスへの参加、学外施設における実習

授業方法：

前期はおもに学外施設の見学を通して心理支援の実際に接することで、各自が現状と課題を検討する。見学に際しては事前レポートと事後レポートによる指導と討議による指導を行う。附属臨床心理相談室においても見学を行い面接や遊戯療法での支援の実際に触れ、各自の問題意識を明確にする。こちらでも事前レポートと事後レポートによる指導を行う。担当ケースについてはスーパービジョンによる指導も行う。また、附属臨床心理相談室のケースカンファレンスでは、ケースを深く多面的に理解することを各自が学ぶ。後期は学外施設における実習を週 1 回の頻度で行う。実習では、診察の陪席、デイケアへの参加、アウトリーチ活動への同行、ケースの担当、カンファレンスへの参加などを通して心理支援の実際を学ぶ。

達成目標：

心理支援の現場において、支援を必要としている人にどのようなかかわりが必要かについて理解を深める。

評価方法：

各レポート（50%）と討議への参加度（50%）により総合的に評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：なし

参考文献：授業中に紹介する

実験・実習・教材費：35,000 円

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
771201	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	2	2	山田・坂本・丸山・二宮・和田・柴田・秋田

期間	曜日	時限	備考：
通年	その他		

授業のキーワード：

臨床心理士 公認心理師 学外実習 学内実習

授業のテーマ：

心理支援の専門家を目指す者に必要な、一人一人のクライアントの見立てと援助方法について実際のケースを通して学び、様々な領域における心理支援の実践的な力を修得する。保健医療、福祉、教育等の分野の施設、および大学附属の臨床心理相談室での実習を通して、要支援者への支援のあり方を学ぶ。

授業の概要：

保健医療分野、福祉分野、教育分野を中心とした学外施設における実習を通して支援の実際を学ぶ。院生は心理実践実習Ⅰと合わせ5分野すべての実習を経験することになる。実習では、診察の陪席、デイケアへの参加、アウトリーチ活動への同行、ケースの担当、カンファレンスへの参加などを通して心理支援の実際を学ぶ。また、附属臨床心理相談室でのケース担当、担当ケースのスーパービジョン、ケースカンファレンスへの参加を通して、今後の心理支援に必要な力を修得する。

授業の計画：

メンタルクリニック、単科精神科病院、総合病院精神科、児童福祉施設、教育相談センター、学校など各自の実習先機関において、週に1回の頻度で実習を行う。また、随時、附属臨床心理相談室でのケース担当を行う。

授業方法：

事前指導、毎回のレポート、レポート指導、事後レポートと事後指導、実習先でのカンファレンスへの参加、診察および心理検査等への陪席、ケース担当、心理検査実施と指導等による実践的な教育を行う。附属臨床心理相談室においても、ケースの担当と、教員のスーパービジョンによる指導、ケースカンファレンスへの参加を通して、心理援助の実際について教育する。

達成目標：

心理支援の現場において、支援を必要としている人にどのようなかかわりが必要かについて臨床心理学的に見立てて、他職種との連携や支援を要する人の周囲の人たちへの援助についても検討しながら、理解を深める。

評価方法：

各レポート（50%）と討議への参加度（50%）により総合的に評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

渡辺雄三『臨床心理士の仕事の方法』（金剛出版）（3,520 円）

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

35,000 円（病院実習費・施設実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
771301	臨床心理実習Ⅱ	2	2	山田・秋田

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

院生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。授業での複数の教員による討議により、院生が心理臨床の多様なオリエンテーションを実践的に学びながら事例を深く理解することとなる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨床的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・児童福祉施設・小中学校・高等学校など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨床的な指導、教育を行なう。

授業方法：

院生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回院生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨床的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

渡辺雄三・山田勝・高橋蔵人・石黒直生（編）「クライアントと臨床心理士」（金剛出版）（4,620円）

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

35,000円（病院実習費・施設実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
771401	認知心理学演習	1～2	2×2	西山めぐみ
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修	
通年	木	1		

授業のキーワード：

知覚、認知、記憶、思考、意思決定

授業のテーマ：

認知心理学は、人間の情報処理過程をコンピュータの情報処理過程になぞらえ、様々な心のはたらきをモデル化し、人間の心の仕組みを明らかにしようとする学問である。認知心理学の考え方、研究手法、認知心理学の扱う多様なテーマについて理解を深めるとともに、近年の認知心理学の研究の広がりや応用についても学ぶ。

授業の概要：

認知心理学における心の考え方、モデルや理論、研究法の利点と問題点について、国内外の学術雑誌を講読、発表、ディスカッションすることを通して理解を深めていく。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. ガイダンス
- 2.～14. 論文の講読、発表、ディスカッション
15. まとめ

（後期）

1. ガイダンス
- 2.～14. 論文の講読、発表、ディスカッション
15. まとめ

授業方法：

論文講読、発表、議論

達成目標：

認知心理学の研究法、研究テーマ、未解決の問題、心理学の学術論文の形式について理解する。これらを自身の論文作成に繋げることができる。

評価方法：

各回の発表とディスカッション

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

適宜指示する

参考文献：

適時指示する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
771501	社会心理学演習	1～2	2×2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	2	

授業のキーワード：

返報性 一貫性 権威 集団

授業のテーマ：

前期は、なぜ人は動かされるのか、さまざまな要因の影響について考える。後期は、認知や感情、対人関係、集団といった社会心理学の研究論文から、研究動向を概観し、基礎的な知見の獲得とその応用を目指す。

授業の概要：

テキストの精読と研究論文に関する議論を行い、「感情が個人の行動に及ぼす影響」、「集団関係」といったことについて関連する研究のこれまでの流れと、最新の研究動向を概観する。これらを通して、社会心理学の基礎的な知見を社会で生じている現実の課題解決に応用する可能性を考える。

授業の計画：

(前期)

1. 授業の概要
2. 影響力の武器
3. 返報性 (1)
4. 返報性 (2)
5. コミットメントと一貫性 (1)
6. コミットメントと一貫性 (2)
7. 社会的証明 (1)
8. 社会的証明 (2)
9. 好意 (1)
10. 好意 (2)
11. 権威 (1)
12. 権威 (2)
13. 希少性 (1)
14. 希少性 (2)
15. 前期授業まとめ

(後期)

1. 後期授業の概要
2. 認知と感情に関する研究の検討 (1)
3. 認知と感情に関する研究の検討 (2)
4. 認知と感情に関する研究の検討 (3)
5. 自己と感情に関する研究の検討 (1)
6. 自己と感情に関する研究の検討 (2)
7. 自己と感情に関する研究の検討 (3)
8. 対人関係に関する研究の検討 (1)
9. 対人関係に関する研究の検討 (2)
10. 集団関係に関する研究の検討 (1)
11. 集団関係に関する研究の検討 (2)
12. 集団関係に関する研究の検討 (3)
13. 社会心理学の知見の応用 (1)
14. 社会心理学の知見の応用 (2)
15. 全体まとめ

授業方法：

前期は、テキストの精読を行う。発表者がレジュメを作成し、質問者が議論のきっかけとなる質問を行い、影響力について考えていく。後期は、社会心理学に関わる研究論文の中から、受講生が興味関心のあるものを選択し、議論を行う。

達成目標：

心理学的な視点から、影響力についての総合的な理解を目指す。また、さまざまな社会心理学等の研究論文を議論することを通して、先行研究の知見を獲得し、多くの心理学の概念を理解することを目指す。

評価方法：

授業への取り組み (70%) およびレポート (30%) によって総合的に評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

ロバート・B・チャルディーニ著 (社会行動研究会 訳)『影響力の武器 (第三版)』誠信書房 (2,700 円+税)

参考文献：

適宜提示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名		対象学年	単位数	担当教員名
771601	犯罪心理学演習		1～2	2×2	巖島行雄
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修		
通年	木	1			

授業のキーワード：

Forensic Psychology、捜査心理学、法心理学、犯罪心理学、被害者心理学、矯正心理学

授業のテーマ：

広義の意味での Forensic Psychology は、心理学（認知心理学や社会心理学など）の集積された知識や実験を通して明らかになった諸事実を応用して、現実の法的に問題となるような事象を解決する心理学のことである。本授業では、この Forensic Psychology の研究領域、方法論、主要な発見を理解する。

授業の概要：

前半は Forensic Psychology の最新の英文テキストを読み、この心理学がどのような心理学であるのかについて理解を深める。後半は Forensic Psychology における影響力のある心理学者の研究論文を読み、この心理学における研究の方法論、概念について深く知る。特にロフタス教授の目撃者の記憶に関する研究や、セシ教授による子どもの記憶、供述能力、非暗示性の研究を中心に論文を読む。

授業の計画：

前期	後期
1. オリエンテーション	16. オリエンテーション
2～14. 発表と議論	17～29. 発表と議論
15. まとめ	30. まとめ

授業方法：

前半は『Introduction to Forensic Psychology, 6th Eds. Sage Publishing』、後半は代表的研究者の最近の英文論文を読む。前半では各章の担当者を割り当て、発表と議論を行う。後半は、論文の内容を報告し、議論する。合わせて、英文レジメの作成方法についても学ぶ。

達成目標：

Forensic Psychology の包括する諸領域、使用される研究方法、主要な発見された事実に関して理解し、この心理学の特徴を把握すること。また、英語の文献を読むスキルも向上させる。

評価方法：

発表（60%）と議論への参加（40%）で評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

Bartol& Bartol(2021) [Introduction to Forensic Psychology, 6th Ed.

参考文献：

授業の中で適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	山田 勝

期間	曜日	時限	備考:
通年	金	2	

授業のキーワード:

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ:

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定の理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要:

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法(心理療法)の構成によって授業を進める。また、受講生による渡辺他(編)「クライアントと臨床心理士」の事例のレポートと討議を行う。

* 準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画:

教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床的、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期	後期
1回～2回 第1章「臨床心理学の原則」	1回 第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～4回 第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	3回 第9章「クライアントにかかわる」
5回～6回 第3章「臨床心理学の見方、考え方」	5回 第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
7回～9回 臨床事例の提示	7回 第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～12回 第4章「クライアントに会う」第5章「クライアントを理解する」	9回 第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
13回～15回 第6章「クライアントを査定する」第7章「病態水準論」	11回 第13章「クライアントと共に歩き続ける」

※ 後期のその他の回は受講生による渡辺他(編)「クライアントと臨床心理士」の事例のレポートと議論を行う。受講生の人数によって調整する。

授業方法:

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒(臨床心理士)となる。

評価方法:

授業への取り組み(70%)とレポートによる評価(30%)。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準:

- A: 達成目標を相応に達成している
- B: 達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C: 達成目標の最低限は満たしている
- D: 達成目標の最低限を満たしていない

教科書:

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』(金剛出版)(6,380円)

渡辺雄三・山田勝・高橋蔵人・石黒直生(編)「クライアントと臨床心理士」(金剛出版)(4,620円)

参考文献:

授業の中で紹介します。

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	小泉規実男

期間	曜日	時限	備考
後期	月	3	

授業のキーワード：

「精神分析療法的心理療法の実際」「治療者の自由連想（もの思う）能力」「生きた交流・死んだ交流」

授業のテーマ：

精神分析は、情緒的欲求を満たさない治療構造の元、過去の過酷な全体状況が転移・逆転移という舞台上に再燃されるよう設えられた特殊療法である。統制された治療的退行の中で外傷的対象関係を直に扱える深さは、危うさと両刃の剣である。ここでは技法論や概念には深入りせず、精神分析的療法で再燃される過去の全体状況を理解することを通じて、治療者のもの思う能力、生きた交流の芽を育みたい。

授業の概要：

毎回、講師による精神分析的臨床実践例を提示する。受講生は、来談者の乳幼児的世界や内的体験を理解するために、自身の内的体験と重ね合わせ、浮かび上がる連想に耳を傾けることになるであろう。それを言語化する作業には心の痛手を伴うが、できる限りありのままに自己観察し、言語化して頂く。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

講師は一臨床家に過ぎない。臨床実践を通して体験してきたことを自分なりの実感と言葉で伝えることしかできない。勿論、講師の臨床のバックボーンには精神分析があり、可能な限り精神分析的たらんと日々の臨床を続けている。しかし、精神分析的療法は特殊療法であり、院生などの初学者が精神分析的療法を実践することは実際的ではなく、「乱暴な分析」（フロイト）に陥る危険性が高い。

従って、この授業では精神分析的な技法論や概念装置は、「プロセスノートの取り方」「初回面接」「初回夢」「最早期記憶」「中核葛藤テーマ」「転移と逆転移」「投影同一化」「治療構造論」など、分析的経過を理解するために必要な最小限度の理論に限って説明するに留めるつもりである。またW.R. ビオンの、精神分析的態度としての「欲望なく・理解なく・記憶なく」なども紹介する。

その上で、あるいはそれと並行して、講師が実践してきたアルコール依存症とその家族に対する精神分析的アプローチや開業心理臨床の実際、更に神経症や自己愛構造体などの人格障害圏の6名の来談者（患者）との精神分析的な心理療法の実際について詳細な経過を提示する。

受講生はその報告を聞きながら自分の中で浮かんでくる連想に心の耳を澄ませ、自身の内的体験を重ねることで共感しようとする内的な営みを、自己観察し、言語化していただく。

それを授業のたびに、授業当日の内にメールにてレポート提出していただく。

授業方法：

授業は円卓にて行う。講師が事例提示する際にはレジュメを用意するが、未発表の事例に関しては、レジュメをその都度回収する。

達成目標：

精神分析療法的心理療法例に触れることを通じて、「治療者の自由連想（もの思う）能力」や「生きた交流・死んだ交流」について体験的に学びたい。

評価方法：

8割以上の出席率を最低条件とし、「授業での発言・討論の頻度と内容」50%・「毎回授業後に提出して貰うレポートの内容」50%によって評価する。期末のレポート提出や試験は行わない。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

教科書は特にないが、最小限、以下の参考文献程度の基礎的な知識は持って臨まれないと、勿体ない。

参考文献：

- 小此木啓吾著『対象喪失』1979,中公新書,680円＋税
- 松木邦裕著『対象関係論を学ぶ』1996,岩崎学術出版社,3240円＋税
- ベルトラン・クラメール著『ママと赤ちゃんの心理療法』1994,朝日新聞社,2000円＋税
- 渡辺久子著『母子臨床と世代間伝達』2000,金剛出版,3600円＋税

実験・実習・教材費：

特になし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	3	

授業のキーワード：

グループ・アプローチ（GA）、治療グループ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ（PCEG）、構成的グループ、家族及びコミュニティ・アプローチ、ファシリテーション

授業のテーマ：

家族関係、小グループ、地域社会に対するグループ・アプローチ（GA）の心理支援は、心理療法、予防、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチ（GA）の種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）、構成的グループ、集団心理療法、家族アプローチ、コミュニティ・アプローチについてその特徴や意義、方法、プロセスとアウトカム、ファシリテーション、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. グループ・アプローチ（GA）の定義と種類を概説する。
2. グループ・アプローチ（GA）の歴史、発展及び現状を概説する。
3. グループ・アプローチ（GA）の立場、理論及び方法（1）を解説する。
4. グループ・アプローチ（GA）の立場、理論及び方法（2）を解説する。
5. グループ・アプローチ（GA）の実際（1）について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチ（GA）の実際（2）について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチ（GA）の実際（3）について紹介・解説する。
8. グループ・アプローチ（GA）の実際事例（1）の理解を深める。
9. グループ・アプローチ（GA）の実際事例（2）の理解を深める。
10. グループ・アプローチ（GA）の体験学習（1）を行い、GAの理解を深める。
11. グループ・アプローチ（GA）の体験学習（2）を行い、GAの理解を深める。
12. グループ・アプローチ（GA）の体験学習（3）を行い、GAの理解を深める。
13. グループ・アプローチ（GA）の実践研究（1）について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチ（GA）の実践研究（2）について紹介・解説する。
15. グループ・アプローチ（GA）の教育・訓練と倫理について解説する。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料の解説、ビデオとDVDの視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを通してグループ・アプローチ（GA）の理解を深める。

達成目標：

広い意味でのグループ・アプローチ（GA）に関する基本的な理論、方法、実際及び研究などについての理解を深める。

評価方法：

平常点...35%、ミニレポート...15%、期末レポート...50%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

人間関係研究会監修・伊藤義美他編著(2020)、『エンカウンター・グループの新展開』、木立の文庫、3,630円

参考文献：

近藤喬一・鈴木純一編著(1999)、『集団精神療法ハンドブック』、金剛出版、5,280円

実験・実習・教材費：

特に必要としない。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780801	心理学研究法特論	1	2	西山めぐみ

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード：

心理学研究、研究リテラシー、批判的思考、アカデミック・コミュニケーション

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を測定し、分析し、理解することである。この授業では、研究に必要なリテラシーはもちろん、有益な意見交換のためのコミュニケーション能力、論理的かつ合理的な思考方法を身につけることを目的とする。

授業の概要：

研究テーマの決定から報告書執筆に至るまでの一連の過程（研究計画の立案、データの収集、分析、仮説の検証）を経験し、授業終了時まで研究論文（レポート）を完成させる。授業時間内の学習のみでなく、授業時間外での自主的な学習が要求される。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

第1回	ガイダンス・研究法の基礎	第9回	データ収集の実施
第2回	先行研究の検索と紹介①	第10回	測定結果の整理・データ分析①
第3回	先行研究の検索と紹介②	第11回	測定結果の整理・データ分析②
第4回	先行研究の検索と紹介③	第12回	結果の解釈①（考察）
第5回	研究テーマと研究目的の決定	第13回	結果の解釈②（考察）
第6回	研究方法の検討①	第14回	結果の解釈②（考察）
第7回	研究方法の検討②	第15回	発表とディスカッション
第8回	研究方法の検討③		

授業方法：

グループワークを中心として、研究の一連の流れを実際に経験し、研究論文（レポート）を作成する。パソコンを使った文献検索やデータ分析を行うため、ノートパソコンを持参すること。データ分析には Excel、SPSS の他、HAD、js-STAR、KH Coder などのフリーソフトを使用する。

達成目標：

- ①独力で研究計画を立案できるようになる。②修士論文研究に必要な基礎技能を身につけている。
③指導教員や大学院生と研究に関して有益な意見交換ができるようになる。

評価方法：

出席回数等の基準をクリアしていることを前提とし、授業への取り組み（30%）と研究論文・レポート（70%）によって評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
C：達成目標の最低限は満たしている
D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

なし

参考文献：

長谷川桐・鶴沼秀行 『テンプレートで学ぶ はじめての心理学論文・レポート作成』 東京図書（¥2,200+税）

三浦麻子 『なるほど! 心理学研究法（心理学ベーシック第1巻）』 北大路書房（¥2,420+税）

日本心理学会（編） 『執筆・投稿の手引き』 日本心理学会（日心 HP から DL 可）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	鎌水秀和

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード：

学習、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、言語の習得

授業のテーマ：

ヒトの行動の多くは、生得的なものではなく、経験を通じて学習されたものといえる。人間行動理解のために不可欠である学習過程を代表的な理論や研究結果を通して理解し、学習という心的過程のメカニズムについて考える。

授業の概要：

動物の学習といった古典的学習から、教授学習に関わる学習過程まで幅広く、「学習」に関する心理学的知見を紹介する。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

第1回	学習とは	第9回	概念・観察学習
第2回	生得的学習，馴化と鋭敏化	第10回	記憶と学習
第3回	古典的条件づけ：基本的特徴	第11回	長期記憶，動機づけ
第4回	古典的条件づけ：複雑な条件づけ	第12回	言語の諸相
第5回	オペラント条件づけ：基本的特徴	第13回	言語の障害
第6回	オペラント条件づけ：消去と罰	第14回	言語の獲得
第7回	オペラント条件づけ：強化スケジュール	第15回	言語と思考・文化，まとめ
第8回	条件づけのまとめ		

授業方法：

指定した教科書の内容にもとづいて、授業を進める。内容理解のための補助として、パワーポイントの呈示や資料の配布を適宜行う。授業内容と関連した発表をしてもらい、その内容をまとめたレポートの提出を求める。

達成目標：

ヒトの学習・行動について、古典的条件づけおよびオペラント条件づけを基本とした学習メカニズムに関する心理学的知見を幅広く理解しており、順を追って説明することができる。また、ヒトが言語をどのように習得しているかに関する心理学的知見を理解している。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、期末レポート（80%）、授業での発表（20%）で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

中島 定彦（著）『学習と言語の心理学』、株式会社昭和堂、2,750 円（税込）

参考文献：

実森 正子・中島 定彦（著）『学習の心理 第2版 行動のメカニズムを探る』、サイエンス社、2,530 円（税込）

楠見 孝（編著）『第8巻 学習・言語心理学（公認心理師の基礎と実践）』、遠見書房、2,860 円（税込）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	友永雅己
期間	曜日	時限	備考： オンライン講義	
前期	火	1		

【授業のキーワード】

比較行動学、比較認知科学、進化心理学、進化、適応

【授業のテーマ】

ヒトを含むさまざまな動物の行動や認知を「進化」という観点から研究してきた比較行動学について学ぶ。比較行動学は、さまざまな種間での比較を通じて、行動や認知の至近要因だけでなく、「行動や認知がどのように進化してきたのか、そしてそれはなぜか」という究極要因にも目を向ける。このような観点から、ヒトの心のユニークさと心の進化について考察する。

【授業の概要】

本科目は、ヒトを含む動物の行動を「進化」の観点から研究する比較行動学の理解を深めることを目的とする。まず、比較行動学の研究事例を紹介し、ヒトの心的能力のユニークさについて討論する。次に、進化生物学や比較心理学などの基礎理論や脳の進化を学ぶ。その後、物理的知性や社会的知性、コミュニケーション、発達などの重要な研究テーマを具体例とともに解説する。最後に、学習内容を踏まえ、再びヒトの心的能力について討議し、レポートを作成する。

【授業の計画】

- 第1回 比較行動学への招待
- 第2回 人類の起源と進化
- 第3回 動物行動研究の基礎理論①（進化論の展開）
- 第4回 動物行動研究の基礎理論②（比較行動学、比較認知科学、進化心理学）
- 第5回 中枢神経系の進化（神経系の発生、脳の種間比較、ヒトの脳）
- 第6回 比較行動学／比較認知研究の方法論（行動の進化の再構築と適応的意義、心の領域固有性）
- 第7回 振り返り
- 第8回 物理的知性①（概念形成と推論）
- 第9回 物理的知性②（道具使用）
- 第10回 社会的知性①（他者の心の推測）
- 第11回 社会的知性②（あざむき、駆け引き、協力）
- 第12回 コミュニケーションと言語①（種特異的なコミュニケーション）
- 第13回 コミュニケーションと言語②（言語によるコミュニケーション）
- 第14回 発達（母子間関係、行動発達）
- 第15回 ヒトのユニークさとは？（まとめと討論）

【授業方法】

プリントや動画資料を使いながら、講義形式で進めていく。

【達成目標】

本科目では、以下に示す3つの目標を達成することをめざす。①ヒトを含むさまざまな動物の行動や認知の進化について研究する諸学問や理論について概略を理解し、説明できること。②行動や認知がどのように進化してきたか、なぜそのような進化してきたかについて理解し、説明できること。③ヒトの行動や認知を他の動物と比較した際の共通点と特異性を理解し、説明できること。

【評価方法】

出席回数要件をクリアしていることを前提とし、ディスカッションでの取組み（40%）とレポートの内容（60%）によって評価する。

※ 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で答案を確認できる。

【教科書】

なし

【参考文献】

- 藤田和生 『比較認知科学への招待』 ナカニシヤ出版 ¥2,700
 - 長谷川寿一・長谷川真理子 『進化と人間行動 第2版』 東京大学出版会 ¥2,750
 - 中島定彦 『動物心理学への扉』 昭和堂 ¥2,530
- ※なお、以上の参考文献に加えて、各回のシラバスに追加の参考文献を示す。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論 (産業・労働に関する理論と支援の展開Ⅱ)	1・2	2	三宅 美樹

期間	曜日	時限	備考:
前期	集中		集中講義日: 8月4日・18日・22日、9月1日

授業のキーワード:

産業・組織心理学、個人と組織、こころの健康、産業精神保健、産業・組織心理臨床

授業のテーマ:

産業・労働分野に関わる公認心理師ならびに臨床心理士として、産業・組織心理学の理論、および基礎的な知識を習得する。その上で組織の中での心理職の役割を理解および把握し、心理的支援の実践について考える力を養う。

授業の概要:

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、産業・労働分野に関わる公認心理師ならびに臨床心理士の実践について理解を深める。

*準備学習(予習・復習等)の具体的な内容およびそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画:

- | | | |
|-----|----|----------------------------------|
| 1日目 | 1 | イントロダクション(産業・労働分野の全体像の把握と理解) |
| | 2 | 産業・労働分野における労働関連法規 |
| | 3 | 産業保健・産業精神保健(労働に起因するストレスとメンタルヘルス) |
| | 4 | ダイバーシティと働き方改革 |
| 2日目 | 5 | 産業・組織心理学①(産業・組織心理学とは) |
| | 6 | 産業・組織心理学②(キャリア発達、キャリア開発) |
| | 7 | 産業・組織心理学③(ワークモチベーションと組織コミットメント) |
| | 8 | 産業・組織心理学④(リーダーシップとフォロアーシップ) |
| 3日目 | 9 | 産業・組織心理学⑤(職場の人間関係、ハラスメント) |
| | 10 | 産業・組織心理学⑥(作業と安全衛生、労働災害、危機介入) |
| | 11 | 産業・組織心理学⑦(ストレスチェック制度、一次予防と組織分析) |
| | 12 | 産業・組織心理学⑧(組織開発) |
| 4日目 | 13 | 障害をもつ労働者への支援 |
| | 14 | 職場復帰支援 |
| | 15 | ディスカッション、まとめ |

授業方法:

担当教員からイントロダクションを行った上で、各章について受講者がレジュメを作成し、発表する。他の受講者は発表内容について議論する。必要に応じて担当教員が解説する。それに加えて、架空事例について検討を行い、理解を深める。

達成目標:

- 産業・労働分野における心理職の機能と、他分野との同異を理解することができる。
- 産業・組織心理学の理論を習得し、心理職として組織の中で必要な介入を検討できる。

評価方法:

授業時の発表 50%、参加態度 30%、授業時に提出するミニレポート 20%
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できる。

成績評価基準:

- A: 達成目標を相応に達成している
- B: 達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C: 達成目標の最低限は満たしている
- D: 達成目標の最低限を満たしていない

教科書:

加藤容子・三宅美樹(編著) 『産業・組織心理学 - 個人と組織の心理学的支援のために』
ミネルヴァ書房 ¥2,200

参考文献:

外島裕監修 田中堅一郎編 『産業・組織心理学エッセンシャルズ【第4版】』 ナカニシヤ出版
¥3,190

山口裕幸・金井篤子(編) 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 ¥2,400

実験・実習・教材費: なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論（産業・労働に関する理論と支援の展開 I）	1・2	2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード：

組織 対人的影響 チーム活動

授業のテーマ：

この授業では、対人的影響について理解を深めるために、特に、ギバーとテイカーという他者志向性・自己志向性の対人的影響について取り上げる。「情けは人のためならず」は成立するのか、仕事とはなにかについて考え、議論を通して理解することを目指す。

授業の概要：

テキストを精読し、議論を通して、自己犠牲ではなく他者志向的であることの対人的影響に関わる心理学的諸問題について多面的に理解する。

授業の計画：

毎回の授業では、テキストの各章を精読する。

- 1 授業の概要
- 2 リーダー論の概説（特性アプローチ）
- 3 リーダー論の概説（行動アプローチ）
- 4 PART1
- 5 PART2
- 6 PART3
- 7 PART4
- 8 PART4
- 9 PART5
- 10 PART5
- 11 PART6
- 12 PART7
- 13 PART8
- 14 PART8
- 15 PART9 組織内の「GIVE & TAKE」を考える

授業方法：

課題テキストを精読する。受講生は、レポーターとコメンテーターの役割を1回以上担当する（担当については、事前に割り振りを行う）。レポーターは、担当章の要点をレジュメにまとめ、発表する。コメンテーターは議論のきっかけとなるコメントを複数考えてくる。なお、受講人数に応じて、1名が複数回の担当となることや、逆に複数名で各回を担当することがある。レポーター・コメンテーター以外の受講生も、議論への積極的な参加が求められる。

達成目標：

心理学的な視点から、動機づけについての総合的な理解を目指す。また、現実の社会場面におけるさまざまな現象の解釈において、本授業で学んだ内容を発展的に応用して理解できることを目指す。

評価方法：

レポーター・コメンテーターとしての役割（40%）、議論への参加度（30%）、最終レポート（30%）によって総合的に評価する。

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

アダム・グラント（監訳 楠木建）（1999）. 『GIVE & TAKE』 三笠書房 ¥1,800（税抜）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781401	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）	1・2	2	加藤篤士
期間	曜日	時限	備考：	
前期	集中		集中講義日：	

授業のキーワード：

ストレス、心身相関、心理療法、事例検討、公認心理師

授業のテーマ：

保健医療分野に関わる公認心理師の実践について理解する。そのために、まずは心身医学的知識、心身相関の基礎知識、薬物療法の基礎知識を身につける。その上で、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し実践するための、基本的な見方・考え方について議論を深める。

授業の概要：

保健医療分野に関する理論と支援の展開について学習する。心身医学は、患者を身体面のみならず心理社会面をも含めて全人的なアプローチを行う医学である。この科目では、心身症と生活習慣病、うつ病と不安症などの病態についての理解および診断・治療法について、講義および演習を行う。

なお、この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目であり、公認心理師ならびに臨床心理士の実践についても理解を深めることとする。

授業の計画：

- | | | |
|-----|----|---------------|
| 1日目 | 午前 | ストレスと心理療法について |
| | 午後 | 心身医学各論 |
| 2日目 | 午前 | 評価と治療介入について |
| | 午後 | 交流分析 |
| 3日目 | 午前 | 事例検討 |
| | 午後 | ディスカッション・まとめ |

授業方法：

講義とゼミナール形式を併用する。基本的な知識について講義した後、事例に即した具体的な介入方法を紹介する。さらに教員から特定の事例を挙げ、それについて各自で見立てを行うとともに、介入方法を提示してもらう。参加者全員のディスカッションにより、ブラッシュアップを図る。

達成目標

心身医学に関する基本的な概念を踏まえ、自ら見立てや介入方法の立案ができること。他の医療職と対等の立場でディスカッションできる素養を身につけることを目標とする。

評価方法：

平常点 50%、 レポート 50%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

指定なし。レジュメを配布する。DSM-5-TR（またはDSM-5）があれば持参すること。

参考文献：

講義の中で適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード：

知的障害 身体障害 発達障害 特別支援教育 合理的配慮

授業のテーマ：

公認心理師および臨床心理士が関わる心理臨床現場のうち、福祉分野に関する理論と支援の実際を学びます。特に近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

心理臨床現場に即して様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 障害児者に関わる法律
4. 特別支援教育とは
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 自閉症スペクトラム
8. 限局性学習症
9. AD/HD
10. 障害児者の家族支援
- 11～14 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分についてレジュメを作成し、順番に発表していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。毎回のテーマについて検討したことを各自復習するとともに、発表にあたっては、担当部分の書籍・文献研究や資料作成等の準備学習が必須となります。

達成目標：

1. 心理臨床現場のうち福祉分野（特に障害を中心とするもの）に関する基本的理論と支援の実際を理解できること
2. それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解できること

評価方法：

課題への取り組みおよび発表内容（70%）とレポート（30%）によって総合的に評価します。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書： なし

参考文献： 必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費： なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	巖島行雄

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード：

記述統計、推測統計、心理測定法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行するためには、研究対象となる現象の統計的把握が必要不可欠である。本授業では心理学の理解と研究遂行に要求される統計技法を理解し、実践できる能力を育成する。

授業の概要：

まず記述統計について解説し、次に推測統計の論理と各種技法について解説する。授業ではフリーウェアである統計ソフトHADを用いての実習を通して統計処理の実際を体験し、統計技法を習得する。
*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. イントロダクション | 9. パラメトリック検定 |
| 2. 心理学の測定法 | 10. 分散分析1（1要因） |
| 3. 記述統計1（代表値） | 11. 分散分析2（2要因） |
| 4. 記述統計2（散布度） | 12. 多変量解析1（因子分析） |
| 5. 相関について | 13. 多変量解析2（重回帰分析） |
| 6. 推測統計の論理 | 14. 統計解釈の意味 |
| 7. 統計的検定1（検定の種類） | 15. 最終課題 |
| 8. ノンパラメトリック検定 | |

授業方法：

講義、実習、レポート作成、を組み合わせる授業を行う。

なお、受講者の統計に関する基礎知識のレベル、関心に合わせて授業内容を変更することがある。

達成目標：

研究で陥りがちな統計技法の誤用を避け、正しいデータの分析方法、分析結果の解釈法を身につける。

評価方法：

授業への参加態度 50%、レポート 50%で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

小宮あすか・布井雅人(2018)「Excel で今すぐはじめる心理統計」講談社

参考文献：

授業時間内に必要に応じて紹介する。

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード：

投映法による人間理解、ロールシャッハ法、心理アセスメント

授業のテーマ：

心理臨床実践に必要なさまざまな各種心理検査のうち特に投映法について学びます。投映法の解釈と臨床的な理解を深め、応用力を養うことを目的とします。投映法は「心理アセスメントの技法」であると同時に、半構造化面接のような特徴ももっており、「関わりの技法」だとも言えるものです。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、アセスメントの作業を進めていく必要があります。

授業の概要：

前半は各種投映法についての基礎を学びます。後半はロールシャッハ法の実施から分析・解釈そしてフィードバックまで、理論的背景を概観した上で、事例の検討を行います。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

第1回	オリエンテーション
第2回	描画法①基本
第3回	描画法②バウムテスト
第4回	描画法③HTP
第5回	描画法④風景構成法
第6回	SCT
第7回	PFスタディ
第8回	TAT
第9回	ロールシャッハ法①
第10回	ロールシャッハ法②
第11回	ロールシャッハ法③
第12回	事例検討①
第13回	事例検討②
第14回	事例検討③
第15回	全体のまとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分についてレジュメを作成し、順番に発表していきます。毎回のテーマについて検討したことを各自復習するとともに、発表にあたっては、担当部分の書籍・文献研究や資料作成等の準備学習が必須となります。名古屋大学式ロールシャッハ技法を中心に扱いますが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とします。

達成目標：

各種投映法について理解すること、単なる知識や技術の習得ではなく、実践の場でクライアントにとって役立つ投映法アセスメントができるようになることを目指します。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）...60%、レポート...40%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

名古屋ロールシャッハ研究会編『ロールシャッハ法解説—名古屋大学式技法—』金子書房
（M1の「臨床心理査定演習」で使用したものと同じです）

参考文献：

森田ほか『実践ロールシャッハ法—思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版 2,520円
松本・森田・小川：編『児童・青年期臨床に生きるロールシャッハ法』金子書房 3,500円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781801	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	3	

授業のキーワード：

心の健康教育、心の積極的健康、心の健康といのちの教育プログラム、個人アプローチとグループ・アプローチ（GA）、体験学習

授業のテーマ：

心（いのちを含む）の健康教育に関する理論、方法、実践及び研究について理解と体験を深め、自ら実践できるようになる。

授業の概要：

心（いのちを含む）の健康教育に関する理論、方法、実際、実践及び研究を明らかにする。
*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. 心（いのちを含む）の健康教育の定義、意義、理論及び実践を解説する。
2. 心（いのちを含む）の健康教育の現代的危機と心の積極的健康を概説する。
3. 心の健康の回復とその方法（個人アプローチ）（1）を解説する。
4. 心の健康の回復とその方法（個人アプローチ）（2）を解説する。
5. 心の健康の回復とその方法（グループ・アプローチGA）（1）を解説する。
6. 心の健康の回復とその方法（グループ・アプローチGA）（2）を解説する。
7. 心の健康教育プログラム（社会的スキル等の教育・訓練）の領域と内容を解説する。
8. 自己理解と他者理解を深めるプログラム（体験学習）（1）を解説・体験・共有する。
9. 自己理解と他者理解を深めるプログラム（体験学習）（2）を解説・体験・共有する。
10. セルフマネージメントを高めるプログラム（体験学習）（1）を解説・体験・共有する
11. セルフマネージメントを高めるプログラム（体験学習）（2）を解説・体験・共有する
12. コミュニケーション・スキルを高めるプログラム（体験学習）（1）を解説・体験・共有する。
13. コミュニケーション・スキルを高めるプログラム（体験学習）（2）を解説・体験・共有する。
14. 心の健康の心理教育の実践研究の文献を講読する。
15. 心の健康教育の実践研究の発展と課題及び倫理を解説し、全体のまとめを行う。

授業方法：

講義形式と体験学習を併用し、それらを踏まえた体験の共有と全体討論を通して理解を深める。

達成目標

心（いのちを含む）の健康教育に関する理論、方法、実際、実践及び研究についての理解を深める。

評価方法：

平常点...35%、ミニレポート...15%、期末レポート...50%
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

パートン,C.（伊藤義美訳）（2007/2009）、『フォーカシング指向カウンセリング』、コスモ・ライブラリー、1,980円

参考文献：

楡木満生・田上不二夫編（2011）、『カウンセリング心理学ハンドブック 上巻』、金子書房、3,750円。授業の中で適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781901	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード：

スクールカウンセリング 特別支援教育 地域援助 臨床心理士 公認心理師

授業のテーマ：

教育分野における臨床心理士または公認心理師の支援のあり方を理論と実践の両面から理解しておくことは、将来、心理的な援助に携わる者に必須のことである。スクールカウンセリングおよび特別支援教育の諸理論を基盤とし、さらに教育分野における実践的学びを通して、教育分野の心の援助についての現状と課題を各自が主体的に考える力を修得する。

授業の概要：

前半は学校臨床（スクールカウンセリング）に必要な諸理論について概観し、後半には院生による実際の支援の報告から援助の方法を検討していくことで、臨床心理士または公認心理師に必要な心理学的援助の視点や専門的知識について深めていく。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 教育分野の概要
3. スクールカウンセリングの基礎理論
4. 臨床的課題と職域
5. ケースマネジメントと職域間の連携
6. 児童・生徒へのアプローチ
7. 保護者・教師へのアプローチ
8. 事例検討①（不登校）
9. 事例検討②（発達障害）
10. 事例検討③（学級崩壊）
11. 事例検討④（体罰）
12. 事例検討⑤（いじめ）
13. 事例検討⑥（教師のメンタルヘルス）
14. 事例検討⑦（保護者への支援）
15. まとめ

授業方法：

講義および院生による事例報告の検討によって進める。大学院修了までにひとりが経験できる児童・生徒とのかかわりは限られているため、各自が他の院生の発表を通して子どもおよび学校へのかかわりを積極的に検討することで、可能な限り経験を補うことが重要である。

達成目標：

臨床心理士または公認心理師としての教育分野における実践に必要な基礎力を修得する。

評価方法：

授業への取り組み（50%）と期末レポート（50%）によって総合的に評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

野島一彦監修 増田健太郎編著 『教育分野 理論と支援の展開（公認心理師分野別テキスト3）』 創元社（2,400円＋税）

参考文献： 授業中に紹介する

実験・実習・教材費： なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782001	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	堀尾良弘

期間	曜日	時限	備考
後期	火	4	

授業のキーワード：

司法・犯罪の心理臨床 非行少年・犯罪者の心理・性格
非行心理臨床の面接・検査技法 日本における司法の枠組み

授業のテーマ：

授業では非行や犯罪を表面的に捉えるのではなく、心理臨床・社会的な視点からその背景・要因について理解し、非行臨床における基本的な知識・技術等の取得を目指す。そのために日本の司法の枠組み、心理面接・検査技法等について、資料や事例も交えて学習する。

授業の概要：

非行・犯罪についての法的枠組み、関係機関の役割、非行や犯罪の理解と解明のための理論、非行少年・犯罪者の心理・性格、心理面接・検査技法等についての講義と事例理解のための質疑・意見交換を行う。

授業の計画：

- 第1回 非行・犯罪心理学への招待－授業ガイダンス
- 第2回 非行・犯罪心理学の概論－関係機関、心理専門職の活動
- 第3回 非行・犯罪心理学の基礎(1)－非行・犯罪心理学の歴史的研究
- 第4回 非行・犯罪心理学の基礎(2)－非行・犯罪心理学の数量的分析研究
- 第5回 事例を通して非行・犯罪の理解を深める(1)非行少年の心理アセスメント
- 第6回 事例を通して非行・犯罪の理解を深める(2)非行少年の心理的支援
- 第7回 事例を通して非行・犯罪の理解を深める(3)対象関係論からの視点
- 第8回 非行・犯罪心理学、事例についての振り返りと中間まとめ
- 第9回 精神鑑定の概要（日本の犯罪事件史から）動画資料
- 第10回 精神鑑定事例から学ぶ(1)犯罪少年の本人歴（出生から就学まで）
- 第11回 精神鑑定事例から学ぶ(2)犯罪少年の本人歴（学校時代）
- 第12回 精神鑑定事例から学ぶ(3)犯行に至る心理
- 第13回 精神鑑定事例から学ぶ(4)犯行時の心理
- 第14回 精神鑑定事例から学ぶ(5)犯行時の状況と精神状態
- 第15回 精神鑑定事例から学ぶ(6)精神医学的診断／全体の振り返りとまとめ

授業方法：

講義形式の授業や、少人数を活かして質疑応答、意見交換等、双方向の授業を行う。事前に資料を配布する場合は、受講者がレジュメを用意して報告し、全員で討議する。また、事例を学ぶ授業では心理検査の結果分析などを行う場合もある。

達成目標：

司法・犯罪分野における理論と支援の実際について理解する。さらに、非行少年・犯罪傾向のある人に対して臨床心理士及び公認心理師として支援に携わる際に、必要となる視点や基本姿勢を習得する。

評価方法：

授業の取り組み（60%）、期末レポート課題（40%）で評価する。
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書： なし。資料を用意する。

参考文献： 授業内で紹介する。

実験・実習・教材費： なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782101	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	1	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考:
前期	月	3	

授業のキーワード:

基本的態度、関係性の構築、心理療法、臨床心理士、公認心理師

授業のテーマ:

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度と関係性構築への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要:

心理面接の基本的態度と関係性の構築、心理療法各種の理論の基本概念について学ぶ。具体的には、力動論に基づく心理療法、行動論および認知論に基づく心理療法、その他の心理療法の、理論と方法を学び、そのうえで心理に関する相談、助言、指導等に、理論と方法がどのように応用できるかについて理解を深める。また、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について公理事例などを通して討論する。

*準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画:

- ① オリエンテーション
- ② 臨床心理面接を行う基本的態度・関係性の構築・倫理について
- ③～④ 力動論に基づく心理療法～基本的概念と事例の検討
- ⑤～⑥ 行動論および認知論に基づく心理療法～基本的概念と事例の検討
- ⑦～⑬ その他の心理療法(来談者中心療法、遊戯療法、箱庭療法、表現療法、家族療法、親面接・並行心理療法など)～基本的概念と事例の検討
- ⑭ 学校および児童福祉施設における心理支援～基本的考え方と事例の検討
- ⑮ 全体のまとめ～基本的態度・方法・関係性の統合、支援方法の選択・調整

授業方法:

講義および演習方式で行う。各項について報告者がレジュメを作成、発表し、全員で討議する。

達成目標

各種心理療法についての特徴と方法を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度と関係性の構築について理解する。

評価方法:

授業への取り組み(50%)およびレポート(50%)によって総合的に評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準:

- A: 達成目標を相応に達成している
- B: 達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C: 達成目標の最低限は満たしている
- D: 達成目標の最低限を満たしていない

教科書: なし

参考文献:

土居健郎『新訂 方法としての面接』医学書院
 笠原 嘉『精神科における予診・初診・初期治療』星和書店
 成田善弘『新訂増補 精神療法の第一歩』金剛出版
 渡辺雄三他編『クライアントと臨床心理士』金剛出版
 馬場禮子『精神分析的な心理療法の実践 クライアントに出会う前に』岩崎学術出版社
 伊藤良子編著『遊戯療法 様々な領域の事例から学ぶ』ミネルヴァ書房
 下山晴彦編『認知行動療法 理論から実践的活用まで』金剛出版
 ※その他、必要に応じ、授業の中で適宜、紹介する。

実験・実習・教材費: なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782201	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2	和田剛宗

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード：

基本的な態度、関係性作り、見立て、心理的支援

授業のテーマ：

心理療法の各種理論とその実践について学び、それぞれの特徴について理解する。また、心理療法についての学びや体験を通じた心理的・行動的な変容に触れることで、臨床心理面接を行うにあたっての基本的な態度や被支援者への関わり方について理解を深め、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。

授業の概要：

座学や体験を通して、「動機づけ面接」、「認知・行動療法」、「動作法」の理論・技法・実践を学び、それらの活用について検討することで、心理療法の理解を進める。また、これらの心理療法に共通する、心理臨床家としての基本的な態度について理解を進める。加えて、学術誌や書籍などに掲載されている事例について討論し、臨床現場での心理療法の活用に関する理解を深める。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- ① オリエンテーション
- ②～⑭ 認知・行動療法、動機づけ面接、動作法などの理論と実践
- ⑮ 全体のまとめ

授業方法：

授業は、講義および演習方式で行う。また、内容について理解を深められるよう、講義および演習に関する自発的な質問を求める。なお、各回の前後に学習課題を提示する。

達成目標：

各種の心理療法の理論と方法を理解する。また、それらの心理療法に共通する、心理臨床家としての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって総合的に評価する。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：なし

参考文献：

- 笠原嘉 2007 『精神科における予診・初診・初期治療』 星和書店
 鑪幹八郎・名島潤慈（編著） 2018 『臨床家の手引き [第4版]』 誠信書房
 杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・リチャード・W・マロット・マリア・E・マロット 2023
 『行動分析学入門（第2版）』 産業図書
 三田村仰 2017 『はじめてまなぶ行動療法』 金剛出版
 熊野宏昭 2012 『新世代の認知行動療法』 日本評論社
 原井 宏明 2012 『方法としての動機づけ面接-面接によって人と関わるすべての人のために-』
 岩崎学術出版社
 原井宏明（監訳） 2019 『動機づけ面接（第3版） 上・下』 星和書店
 成瀬悟策（監修） 2013 『目で見える動作法[初級編]』 金剛出版
 成瀬悟策 2014 『動作療法の展開-こころとからだの調和と活かし方-』 誠信書房

* その他、必要に応じて授業で適宜紹介する。

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782301	認知心理学特論	1・2	4	西山めぐみ

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード：

知覚、認知、記憶、思考、意思決定

授業のテーマ：

認知心理学は、人間の情報処理過程をコンピュータの情報処理過程になぞらえ、様々な心のはたらきをモデル化し、人間の心の仕組みを明らかにしようとする学問である。認知心理学の基本的な考え方、認知心理学の扱う多様なテーマについて理解を深めるとともに、日常生活と認知心理学の関わりについて考える。

授業の概要：

認知心理学における心の考え方、さまざまな認知機能、人間の認知の「長所」と「短所」について講義と発表、ディスカッションを織り交ぜながら理解を深めていく。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. ガイダンス
- 2.～5. 感覚・知覚の性質
- 6.～10. 記憶の基礎と応用
- 11.～14. 思考と想像
15. まとめ

（後期）

1. ガイダンス
- 2.～5. 意思決定
- 6.～8. 文化と心理学
- 9.～11. 脳と心
- 12.～14. 日常の心理学
15. まとめ

授業方法：

講義とあわせて、発表やディスカッションを行う。

達成目標

認知心理学の考え方や研究法だけでなく、日常生活における人間の行動や思考と認知心理学との関わりについて理解し、認知心理学を実生活において広く応用することができる。

評価方法：

レポート（50%）、発表、ディスカッションを含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

適宜指示する

参考文献：

適宜指示する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782401	社会心理学特論	1・2	4	吉武久美

期間	曜日	時限	備考
通年	金	1	

授業のキーワード：

社会化 ライフステージ 感情 文化

授業のテーマ：

社会化の概念について、多様な人間の事象から考える。社会化はさまざまな事象と関連しており、社会化を包括的かつ体系的に理解することで、社会化の概念そのものやその適用範囲を考える。受講者全員による議論を通し、さらに考えを深めていく。

授業の概要：

前期は「社会化の問題」、「ライフステージとの関連」、「社会化のエージェント」、後期は「認知と判断の社会化」、「感情の社会化」、「文化をめぐる問題」について、テキストの精読と議論を行う。社会化に関する異なる領域の研究を概観し、社会化の知識を獲得することを目指す。

授業の計画：

(前期)

1. 授業の概要
2. 社会化概念の歴史的展開
3. 社会化と進化心理学
4. 遺伝から見た社会化
5. 乳児の社会的能力
6. 中学生期の課題
7. 問題行動の社会化
8. 非婚の時代：結婚への社会化
9. 成人であることの意味
10. 高齢期の社会化
11. 子育て支援の問題
12. 友人関係の変質
13. 学校の直面している課題
14. CMCによる社会化
15. 前期まとめ

(後期)

1. 後期授業の概要
2. 地域社会に生きているか
3. 言語的社会化を支えるもの
4. 主観的ウェル・ビーイングの規定因
5. ステレオタイプの形成・維持
6. 向社会的行動の判断
7. 幼児・児童の共感的反応
8. 恥と罪悪感の社会化
9. 宗教性の社会化
10. 子ども感情制御
11. ジェンダーの社会化
12. 異文化間ソーシャルスキル学習
13. 家長の社会化について
14. 日本人らしさの社会化
15. 全体まとめ

授業方法：

テキストの精読を行う。各章について、発表者がレジュメを作成し、質問者が議論のきっかけとなる質問を行い、全員で議論を深め、社会化について考え、理解する。

達成目標

社会化についての総合的な理解を目指す。さまざまな社会化に関する研究の議論を通して、先行研究の知見を獲得し、社会化の概念を理解する。また、それぞれの課題やその解決について検討することを目指す。

評価方法：

授業への取り組み（60%）およびレポート（40%）によって総合的に評価する。

成績評価基準：

- A：達成目標を相応に達成している
- B：達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C：達成目標の最低限は満たしている
- D：達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

菊池章夫ほか（編）『社会化の心理学／ハンドブック 人間形成への多様な接近』川島書店（4,200円+税）

参考文献： 適宜提示

実験・実習・教材費： なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
782501	犯罪心理学特論	1・2	4	巖島行雄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

捜査心理学、環境犯罪学、犯罪の原因論、サイコパス、触法精神障害者

授業のテーマ：

科学的方法に基づく研究の成果を概観し、各種犯罪の特徴や、犯罪の原因を客観的に考える。そして、犯罪捜査や防犯の取り組みにおける科学の役割を理解することを目的とする。

授業の概要：

各種犯罪の特徴を体系的に整理するとともに、犯罪捜査を支援する方法などについて解説する。また、客観的根拠に基づく犯罪の要因を多角的に論じ、さらに、犯罪の責任について考察する。

授業の計画：

前期

1. 犯罪とは何か
2. 白書を読み解く
3. 殺人
4. テロリズム
5. 性犯罪
6. ドメスティック・バイオレンス
7. 財産犯
8. 放火
9. 少年非行
10. 犯罪者プロファイリング
11. 地理的プロファイリング
12. ポリグラフ検査
13. 目撃証言
14. 防犯のための環境設計
15. まとめ

後期

16. 犯罪を科学的に理解する必要性
17. RNR モデル
18. 性善説に基づく犯罪の原因論
19. 性悪説に基づく犯罪の原因論
20. 犯罪と時間選好
21. 犯罪とリスク選好
22. 犯罪と社会的選好
23. 反社会的パーソナリティ
24. サイコパスの特徴
25. 道徳的行動の進化とサイコパス
26. 道徳的行動の脳神経基盤とサイコパス
27. 犯罪の遺伝性
28. 触法精神障害者の処遇
29. 自由意志と刑事責任能力
30. まとめ

授業方法：

配布資料とパワーポイントを用い、講義形式で授業を行う。

達成目標：

各種犯罪の特徴、犯罪の要因の多様性、犯罪対策における科学の役割を理解する。

評価方法：

レポート(80%)と授業の取り組み(20%)で評価する。

成績評価基準：

- A: 達成目標を相応に達成している
- B: 達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある
- C: 達成目標の最低限は満たしている
- D: 達成目標の最低限を満たしていない

教科書：

参考文献：

- 越智啓太, 桐生正幸(編著) 『テキスト 司法・犯罪心理学』 北大路書房 6,264 円
- J. ボンタ, D. A. アンドリュース(著) 『犯罪行動の心理』 北大路書房 7,150 円

実験・実習・教材費：